

コーヒー豆焙煎機 (家庭用)

取扱説明書

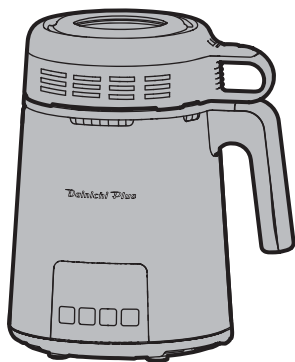
<保証書付> 裏表紙に付いています

エム アール エフ エイ

MR-F60A



Cafe Pro



この製品は日本国内専用ですので、日本国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

もくじ

安全のために必ずお守りください……	1
各部のなまえ……	5
使用前の準備……	6
焙煎運転のしかた……	7
お手入れのしかた……	11
保管のしかた……	13
故障かな?と思ったら……	14
部品のご注文のしかた……	16
仕様……	16
保証とアフターサービス……	17

保証書…… 裏表紙

■製品アンケートへのご協力をお願いします
ご回答の際、ご購入機種の製造番号やお客様のお名前などの入力が必要です。

<https://www.dainichi-net.co.jp/p-enquete/>

ダイニチ工業 製品アンケート

※通信料などはお客様のご負担となります。



お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。



お読みになったあとは、ご使用になる方がいつでも取り出せる場所に、大切に保管してください。

裏表紙の保証書は、「お買い上げ日、製造番号、販売店名」などの記入をお確かめください。

安全のために必ずお守りください

お使いになる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

 	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。	 	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。
 			このマークは、「注意」を促す内容を表しています。

警告(WARNING)

分解修理・改造の禁止

故障・破損したら、使用しないでください。また、お客様自身による分解・修理・改造はしないでください。

感電や故障の原因になります。修理はお買い上げの販売店にご相談ください。[17ページ](#)



分解禁止

交流100V・定格15A以上のコンセントを単独で使用する

他の機器と併用したり、延長コードを使用しないでください。定格を超えると、発熱による火災の原因になります。



必ず行う

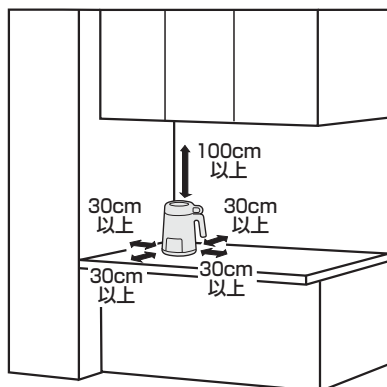
カーテンなど可燃物の近くで使用しない

可燃物の近くでは使用しないでください。また、箱や狭い棚など本体が囲われる状態で使用しないでください。

火災の原因や周囲の壁・家具などが変色するおそれがあります。

可燃物とは右図に示す距離を確保してください。

【可燃物との距離】



警告(WARNING)

水に浸けたり、水などをかけたりしない

本体を水に浸けたり、水やコーヒー、ジュースなどの液体をかけないでください。

水などの液体が本体内部に流れ込むと、故障・漏電・火災の原因になります。

水に浸けたり、水などの液体をかけてしまったときは、ご使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。 **17ページ**



水ぬれ禁止

異常・故障時は運転を停止して電源プラグを抜く

異音・異臭や著しく白い煙が出るなど異常や故障と思われるときは、ご使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。

火災・感電・けがの原因になります。

17ページ



プラグを抜く

幼児の手の届くところでは使わない

子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わないでください。

やけど・けが・感電の原因になります。



禁止

本体内に異物を入れない

本体内にコインや針金などの異物を入れないでください。

火災・感電・けがの原因になります。



禁止

電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグのほこりなどを除去してください。

ほこりがたまると湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。



必ず行う



コーヒー豆以外のものを入れて運転しない

焙煎釜に一度焙煎された豆や焙煎を中断した豆、ポップコーンなどを入れて運転しないでください。

火災・やけど・故障の原因になります。



禁止

ぬれている生豆や水・液体などを入れて運転しない

火災・感電・やけど・故障の原因になります。



禁止

お手入れするときは、電源プラグを抜く

感電の原因になります。



プラグを抜く

焙煎機の用途以外に使用しない

予想しない事故が発生するおそれがあります。



禁止

電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込み、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。

火災や感電の原因になります。



必ず行う



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電やけがの原因になります。



ぬれ手禁止



安全のために必ずお守りください

警告(WARNING)

電源コードを抜いて焙煎運転を停止しない

本体や焙煎運転中の豆が冷却されず、火災・やけど・故障の原因になります。



禁止

電源コードを傷めない

電源コードを傷つけたり、破損、加工、無理に曲げる、引っ張る、重い物をのせる、挟み込むなどしないでください。

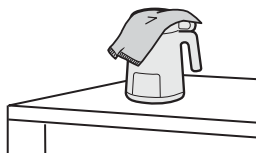
また、束ねたまま使用したり、本体に巻き付けたり、電源コードがねじれたままで使用したり保管しないでください。火災や感電の原因になります。



禁止

吸気口や上フタ・チャフコンテナ排気口をふさがない

火災・故障・やけど・けがの原因になります。

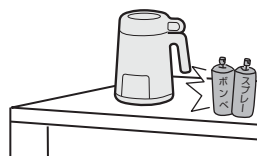


禁止

スプレー缶などを本体の近くに置かない

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを本体の近くに放置しないでください。

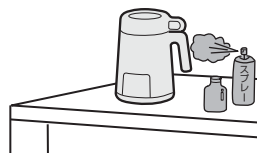
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



禁止

可燃性ガス使用厳禁

本体を使用している部屋で可燃性ガスが発生するもの(ベンジン・シンナー)、スプレーを使用しないでください。火災や故障の原因になります。



禁止

注意(CAUTION)

次の場所では使用しない

火災・やけど・けがの原因になります。

- 箱や狭い棚などで本体が囲われる場所
- 水平でない場所、不安定な場所
- 風が当たる場所、部屋の出入り口、屋外
- ほこりが多い場所
- 敷物(毛足の長い敷物、熱に弱いビニールクロスなど)の上
- 水のかかる場所や水気が多い場所
- 直射日光の当たる場所、ガスこんろなどの炎や熱気の当たる場所
- エアコン・暖房機の温風が直接当たる場所
- 可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所
- 1℃未満の低温や35℃超えの高温になる場所



禁止

焙煎運転中は、本体に手を触れない

焙煎運転中は、本体に手を触れないでください。また、焙煎運転終了直後は、チャフコンテナセット、上フタ・チャフコンテナ排気口、生豆投入口が熱いおそれがありますので、取り扱いに注意してください。やけどやけがの原因になります。



高温注意

上フタ、またはチャフコンテナを外して焙煎しない

焙煎された豆やチャフが焙煎釜から飛び散り、周囲を汚すおそれがあります。また、顔や手にあたり、やけどやけがの原因になります。



禁止

使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜く

火災・感電・けがの原因になります。



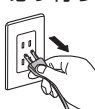
プラグを抜く

電源プラグを抜くときは電源プラグを持って抜く

電源コードを持たずに、必ず、先端の電源プラグを持って引き抜いてください。火災や感電の原因になります。



必ず行う



落としたり強い衝撃を与えない

本体の故障や破損の原因になります。また、上フタのガラス窓が破損し、けがの原因になります。



禁止

焙煎運転中は、そばを離れない

異常の発見が遅れ、事故の原因になります。



禁止

ご使用のたびにチャフコンテナセットに付着したチャフを取り除く

チャフが付着したまま使用すると、焙煎された豆の仕上がりに変化が出たり、火災や故障の原因になります。



必ず行う

規定量の生豆を入れる

1回の焙煎で付属の計量カップに、すりきり1杯(60g)の生豆を入れてください。焙煎された豆の仕上がりに変化が出たり、火災や故障の原因になります。




必ず行う

各部のなまえ

外観図


前面

 **点** チャフコンテナセット
7ページ 10ページ 11ページ

 **点** チャフコンテナ排気口
(以下、「排気口」)
10ページ 11ページ

 ガラス窓 4ページ

 **点** 上フタ
10ページ 11ページ

 **点** チャフコンテナ
10ページ 11ページ

点 吸気口 11ページ

操作部 6ページ

 **点** 焙煎釜 7ページ 13ページ

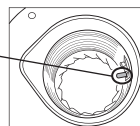
 生豆投入口
7ページ 10ページ

点 電源コード
6ページ 10ページ

点 電源プラグ
6ページ 10ページ

【焙煎釜内部】


温度センサー 13ページ



背面

チャフコンテナ取っ手
7ページ 10ページ

本体取っ手
6ページ 10ページ

 **点** 上フタ排気口
(以下、「排気口」)
10ページ 11ページ

点 吸気口 11ページ
(底面にもあります)

 運転中高温になる部分(ご注意ください)

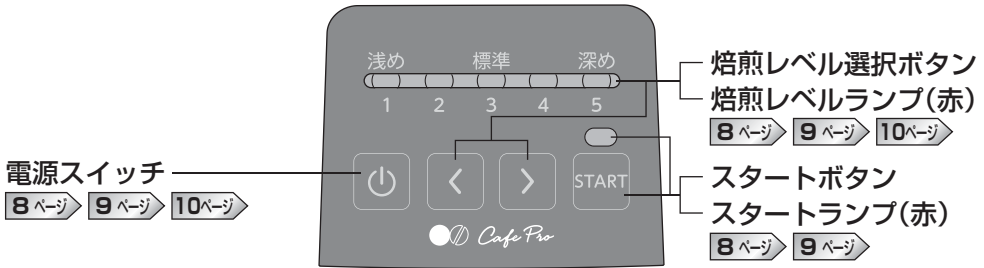
 **点** 点検・手入れが必要な部分

付属品



計量カップ1個 お手入れブラシ1本

操作部



使用前の準備

設置のしかた

設置場所

- ガスこんろなどの熱や風の影響を受けない水平で安定した場所に設置してください。
- 箱や狭い棚などで本体が困われない場所に設置してください。
- 毛足の長い敷物やほこりなどが吸気口をふさがないように設置してください。
- 水のかからない場所に設置してください。

使用条件

- 室内温度は、1～35℃で使用してください。

持ち運ぶとき

- 本体取っ手を持ち、底面に手を添えて傾けないように運んでください。
本体やチャフコンテナセットが落下し、けがや本体破損の原因になります。

本体取っ手

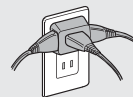


運転開始前の準備

電源プラグをコンセント(100V)に確実に差し込む

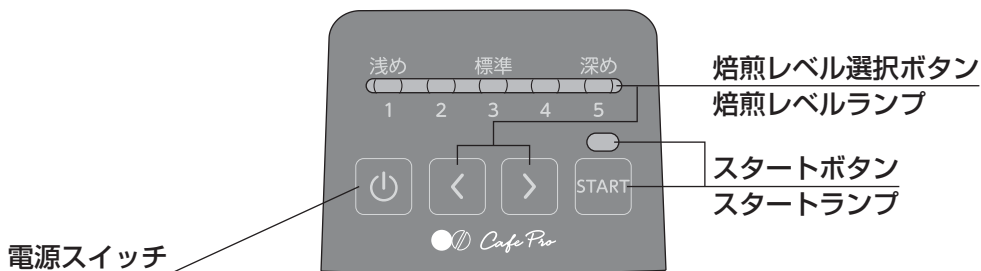
お守りください

- 家庭用電源(100V)以外では使用しないでください。
動作異常や予想しない事故の原因になります。
- 200V電源には絶対に差し込まないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- 定格15A以上のコンセントを単独で使用し、他の機器と併用したり、延長コードを使用しないでください。
定格を超えると、発熱による火災の原因になります。



禁止

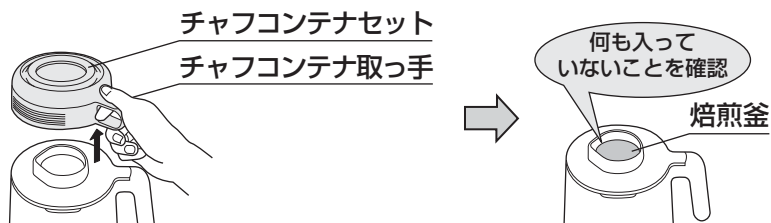
焙煎運転のしかた



1 生豆を入れる

1. チャフコンテナ取っ手を持って本体からチャフコンテナセットを取り外す

- 焙煎釜に何も入っていないことを確認してください。入っていたときは、取り出してください。



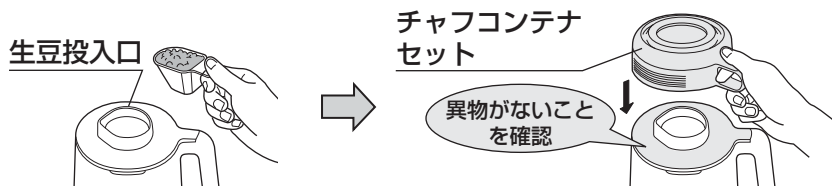
2. 生豆を量る

- 生豆を付属の計量カップにすりきり1杯(60g)入れてください。すりきり1杯より少ない、または多量の生豆は、入れないでください。



3. 生豆投入口に生豆を入れ、チャフコンテナセットを本体に取り付ける

- 異物を挟み込んだ状態でチャフコンテナセットを取り付けしないでください。確実に取り付けないと、チャフ(焙煎したときの薄皮)が飛び散ったり、やけどのおそれがあります。

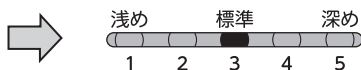


お守りください

次のものは、焙煎しないでください。
火災・感電・やけど・故障のおそれがあります。

- 一度焙煎したり、焙煎を中断した豆
- コーヒー豆以外のもの(ポップコーンなど)
- 水や液体でぬれている生豆

2 電源スイッチを押し、電源を入れる



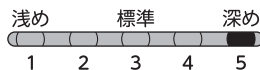
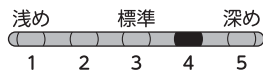
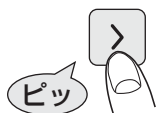
○ 焙煎レベルランプ(赤)が点灯します。

3 焙煎レベル選択ボタンを押し、焙煎レベルを選択する

焙煎レベル選択ボタンを押すごとに焙煎レベルランプ(赤)が切り換わります。

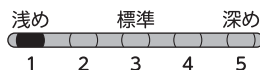
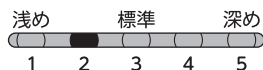
- お好みの焙煎レベルに設定できます。
 - ・ コーヒーの苦味を強くしたいとき…深め
 - ・ コーヒーの酸味を強くしたいとき…浅め

焙煎レベルを上げるとき



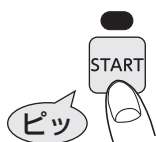
- 1回押すごとに1段階ずつ上がります。

焙煎レベルを下げるとき



- 1回押すごとに1段階ずつ下がります。

4 スタートボタンを押し、焙煎運転を開始する



- スタートランプ(赤)が点灯し、焙煎運転を開始します。開始後は、焙煎レベルは変更できませんので、注意してください。

お守りください

焙煎運転中は、次のことをしないでください。

- チャフコンテナセットを取り外したり、本体に手を触れないでください。チャフが飛び散ったり、やけどやけがの原因になります。
- 焙煎運転中はそばを離れないでください。異常の発見が遅れ、事故の原因になります。
- 焙煎運転が終了するまでは、焙煎された豆を取り出したり、追加しないでください。火災・故障・やけどの原因になります。

焙煎運転のしかた(つづき)

メモ

- 焙煎運転中は、パチパチという音が鳴り、豆が焼ける臭いやわずかに煙が出ることがありますが、異常ではありません。臭いが気になる方は、換気をしながらご使用ください。著しく白い煙が出る場合は、ご使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。[17ページ](#)
- 電源プラグをコンセントから抜いたときは、焙煎レベルは「標準[3]」に戻ります。再度、お好みの焙煎レベルを選択してください。

焙煎運転の時間について

焙煎運転を約15分間行ないます。



- 熱風により焙煎釜の中の豆が回転し、焙煎されます。
- チャフコンテナセットにチャフがたまります。

冷却を約10分間行ないます。



- 焙煎された豆や本体を冷却します。

焙煎運転開始から約25分後に焙煎運転が終了します。

- スタートランプ(赤)が消灯し、「ピーピー」とブザー音が鳴って、焙煎運転が終了したことをお知らせします。

焙煎運転の途中で中止したいとき

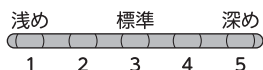
電源スイッチを押す



※電源プラグを抜いて焙煎運転を中止しないでください。



冷却運転開始



- 焙煎レベルランプ(赤)が消灯、スタートランプ(赤)が点滅し、本体が所定の温度に下がるまで冷却を行います。焙煎運転開始直後や焙煎釜が冷えているときは、冷却しないときがあります。

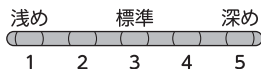


冷却運転終了



- スタートランプ(赤)が消灯します。

5 焙煎運転終了後、電源スイッチを押して電源を切り、必ず、電源プラグをコンセントから抜く



○焙煎レベルランプ(赤)が
消灯します。

6 焙煎された豆を取り出す

○本体からチャフコンテナセットを取り外し、本体取っ手を持って、焙煎された豆を保存容器に移してください。

焙煎された豆は、密閉容器に入れ、湿度の低い暗所で常温保存してください。

チャフコンテナセット

チャフコンテナ取っ手

本体取っ手

排気口

生豆投入口

チャフコンテナ取っ手
を持って取り外す



○焙煎運転終了直後は、チャフコンテナセット、排気口や生豆投入口が熱いおそれがありますので、取り扱いに注意してください。

7 チャフコンテナセットにたまったチャフを捨てる

○チャフコンテナから上フタを取り外し、チャフを捨ててください。

○チャフが熱いときは、直接ごみ箱に捨てずに、水で湿らせてから捨ててください。

○捨てた後は、付属のお手入れブラシで残ったチャフを取り除き、チャフコンテナに上フタを取り付けてください。

○本体にチャフコンテナセットを取り付けるときは、異物を挟み込んだ状態でチャフコンテナセットを取り付けしないでください。

※連続して焙煎運転をするときも、チャフを捨ててから行なってください。



お守りください

○1回の焙煎で付属の計量カップに、すりきり1杯(60g)の生豆を入れてください。焙煎された豆の仕上がりに変化が出たり、火災や故障の原因になります。

○ご使用のたびに、上フタとチャフコンテナにたまったチャフを取り除いてください。

焙煎された豆の仕上がりに変化が出たり、火災や故障の原因になります。

お手入れのしかた

お守りください

- お手入れを行うときは、必ず運転を停止させ、本体が冷えてから電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。また、分解はしないでください。
感電・発火・やけど・故障の原因になります。
- 本体を水に浸けたり、水などをかけたりしないでください。
水などの液体が本体内部に流れ込むと、故障・漏電・火災の原因になります。



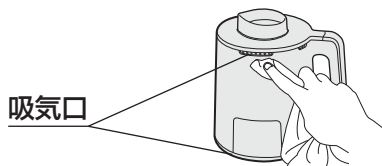
◆本体

本体のほこりや汚れをふき取る

- 汚れが気になったら、柔らかい布でからぶきしてください。汚れが落ちにくいときは、水でうすめた中性洗剤をしみ込ませた布でふいたあと、洗剤が残らないように固く絞った布でふき取り、からぶきしてください。
- 変質や変色防止のため、ベンジン、シンナー、アルコール、アルカリ洗剤、漂白剤などは使用しないでください。また、化学ぞうきんを使用するときは、その注意書に従ってください。

◆吸気口

- 吸気口にほこりがついてきたら、やわらかい布でからぶきしてください。また、ほこりの量が多いときは、掃除機などで吸い取ってください。
- ※吸気口は、本体上部に5箇所、背面に2箇所と底面にあります。◀5ページ▶

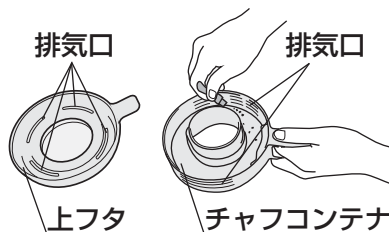


◆チャフコンテナセット

- チャフコンテナから上フタを取り外し、お手入れしてください。◀10ページ▶

ご使用のたびに

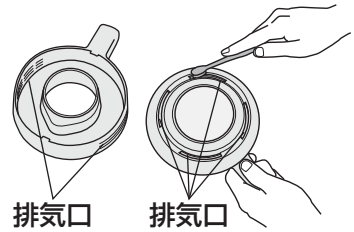
- 排気口、および内側に付着しているチャフなどを付属のお手入れブラシで取り除いてください。



焙煎運転の5回に1回程度

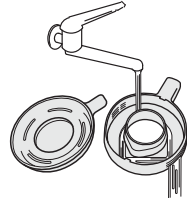
1. 排気口に付着しているコーヒー油を取り除く

- 排気口に中性洗剤を原液のまま数滴垂らし、コーヒー油と洗剤を十分になじませてください。
- 歯ブラシなどの柔らかいブラシで排気口の内側と外側をこすってコーヒー油を取り除いてください。
- ※特に、排気口の外側の方をこすった方が効果的です。



2. 上フタとチャフコンテナを水道水ですすぐ

- 洗剤が残らないようにしっかりすすいでください。



3. 柔らかい布で水分をふきとる

4. チャフコンテナに上フタを取り付け、本体に取り付ける

汚れがひどいとき

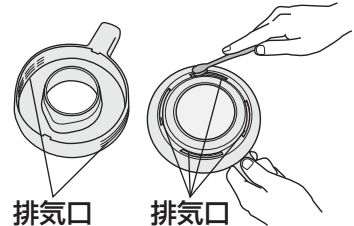
1. 浸け置き洗いをする

- ぬるま湯1Lに対してアルカリ洗剤(推奨:セスキ炭酸ソーダを1%(10g)程度)を溶かし、上フタとチャフコンテナを半日~1日程度浸ける
- ※他のアルカリ洗剤を使用するときは、その使用量に合わせて溶かしてください。



2. 排気口に付着しているコーヒー油を取り除く

- 歯ブラシなどの柔らかいブラシで排気口の内側と外側に付着しているコーヒー油をこすって取り除いてください。
- ※特に、排気口の外側の方をこすった方が効果的です。



3. 上フタとチャフコンテナを水道水ですすぐ

- 洗剤が残らないようにしっかりすすいでください。

4. 柔らかい布で水分をふきとる

5. チャフコンテナに上フタを取り付け、本体に取り付ける

お手入れのしかた

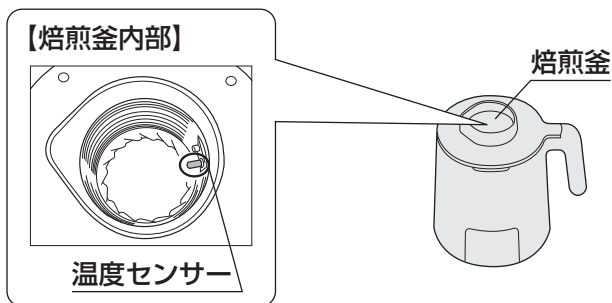
お守りください

- コーヒー油を取り除く際に使用するブラシは、金属製のブラシや硬いブラシを使用しないでください。
排気口の金網や本体を傷める原因になります。また、台所用スポンジの使用は、排気口の金網に届きにくいいため、取り残しが発生してしまい、効果が得られません。
- 排気口に付着しているコーヒー油を歯ブラシなどのやわらかいブラシで取り除くときは、排気口に強い力をかけないでください。
排気口の金網が破損してチャフが外に飛び散るようになるとり、予想しない事故が発生するおそれがあります。

◆焙煎釜

- 焙煎釜の内部が黒くなっても焙煎に影響がありませんので、そのままご使用になれます。
- 誤って焙煎釜の中に異物が入ったときは、取り除いてください。
汚れたときは、柔らかい布でふき取ってください。ふき取るときは、焙煎釜や温度センサーに強い力をかけないでください。
焙煎釜が変形したり故障の原因になります。
- 液体が入ったときは、ご使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。

17ページ



保管のしかた

- 保管するとき(長期間使用しないとき)は、「お手入れのしかた」に従ってお手入れしてください。
- お手入れした部品を十分に乾かしてから、お買い上げ時の包装箱に入れるか、ポリ袋などで包み、湿気の少ないところに保管してください。また、本体を傾けたり、横倒しの状態にしないでください。
- 電源コードを本体に巻き付けたり、ねじれたまま保管しないでください。

故障かな？と思ったら

修理を依頼する前に

次の症状が現れたときは、適切な処置を行なってください。

症状	原因	処置方法
電源が入らない	電源プラグが抜けている。	電源プラグをコンセントに確実に差し込む。 ◀6ページ▶
上手く焙煎できない	規定量の生豆を入れていない。	付属の計量カップに、すりきり1杯(60g)の生豆を入れる。 ◀7ページ▶
	他の機器と併用したり、延長コードを使用しているため、電圧が下がり上手く焙煎できない。	交流100V・定格15A以上のコンセントを単独で使用する。 ◀6ページ▶
	排気口が目詰まりしている。	排気口のお手入れをする。 ◀11ページ▶
本体を強く揺ると「カタカタ」と音がする	安全装置内の部品が動いている音です。	異常ではありません。
電源プラグや電源コードが熱くなる	消費電力が大きいため、運転中は電源プラグがあたたかくなります。	異常ではありません。ただし、触れられない熱さになっている場合は、コンセントのゆるみが考えられますので、別のコンセントで確認し、それでも熱い場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。 ▶17ページ▶
チャフが外に飛び散るようになった	チャフコンテナセットが閉まっていない。	チャフコンテナセットを確実に取り付ける。 ◀7ページ▶
	排気口が目詰まりしている。	排気口のお手入れをする。 ◀11ページ▶
著しく白い煙が出る	○規定量より多い生豆を入れている。 ○排気口や吸気口が目詰まりしている。	電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。 ▶17ページ▶

故障かな？と思ったら

異常の原因と処置のしかた

次のようなエラー表示が現れたときは、適切な処置を行なってください。

表示部(エラー表示)	原因(安全装置)	処置方法
スタートランプ(赤)と焙煎レベルランプ(赤)[4][5]が点滅	本体を傾けたり、転倒したため自動停止した。 (転倒自動停止装置が作動)	水平な場所に設置し、下記「エラー時の処置方法」に従ってください。 ◀6ページ
スタートランプ(赤)と焙煎レベルランプ(赤)[3][4]が点滅	○電源プラグが抜けたため、自動停止した。 ○一時停電したため、自動停止した。 (停電安全装置が作動)	電源プラグをコンセントに確実に差し込み、下記「エラー時の処置方法」に従ってください。 ◀6ページ
スタートランプ(赤)と焙煎レベルランプ(赤)[2][3]が点滅	室温異常(1℃未満、または35℃超)になったため、自動停止した。 (室温異常自動停止装置が作動)	設置方法を確認し、下記「エラー時の処置方法」に従ってください。 ◀6ページ
スタートランプ(赤)と焙煎レベルランプ(赤)[2][3][4][5]が点滅	○吸気口や排気口が、物でふさがれていたり、ほこりがたまったため、自動停止した。 ○チャフコンテナセットにチャフがたまったため、自動停止した。 (過熱防止装置が作動)	下記「エラー時の処置方法」と、お手入れをしてください。 ◀11ページ ○吸気口や排気口の障害物を取り除き、掃除する。 ◀1ページ ▶3ページ ○チャフコンテナセットからチャフを取り除く。
上記以外のエラー表示	点検・修理が必要な故障です。	電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。 ◀17ページ

◆エラー時の処置方法

1. 電源スイッチを押して電源を切り、本体、および焙煎中の豆が冷えてから豆を取り出してください。なお、取り出した豆は、再度、焙煎しないでください。
2. 電源スイッチを押して電源を入れ、焙煎レベルランプ(赤)が点灯すると、再度、焙煎運転を行うことができます。

処置を行っても直らないとき

故障が考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
◀17ページ
故障したまま使用を続けると、予想しない事故が発生するおそれがあります。

部品のご注文のしかた

次の別売部品は、お買い上げの販売店にご注文ください。その際は、型名・部品名をはっきりとお伝えください。また、弊社ホームページの「ダイニチWebShop」でもご注文ができます。



<https://webshop.dainichi-net.co.jp/>

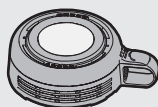
ダイニチWebShop

検索



※通信料などはお客様のご負担となります。

別売部品



チャフコンテナセット
※上フタ+チャフコンテナ
12,100円
(本体価格 11,000円)



計量カップ
660円
(本体価格 600円)



お手入れブラシ
※3本入り
1,760円
(本体価格 1,600円)

この部品は本コーヒー豆焙煎機用です。他の機器では使用しないでください。
また、価格は予告なく変更することがあります。
その他の部品についてはお買い上げの販売店にご相談ください。

仕様

型名	MR-F60A
電源電圧及び周波数	AC100 V 50/60 Hz
定格消費電力	1300 W
生豆投入量	60 g
外形寸法(高さ×幅×奥行)	280 mm×241 mm×186 mm
質量	約2.3 kg
電源コードの長さ	1.3 m
安全装置	転倒自動停止装置、停電安全装置、 室温異常自動停止装置、過熱防止装置
付属品	計量カップ、お手入れブラシ

保証とアフターサービス

使用方法・お手入れのしかた・修理のご相談・別売部品の購入などは、お買い上げの販売店にご相談ください。



保証について



◆保証書(裏表紙に付いています) 裏表紙

- 保証書は、必ず「お買い上げ日、製造番号、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
- 販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。
- 内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

◆保証期間

保証期間は、お買い上げ日から本体1年間です。



補修用性能部品について



- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 本機器の補修用性能部品は、製造打切り後9年保有しています。



修理を依頼されるときは



- 「故障かな?と思ったら」に従ってお調べください。◀14ページ▶▶15ページ▶
- 処置を行っても直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。その際は、下の事項をご連絡ください。

品名：ダイニチコーヒー豆焙煎機
型名：本体底面に表示
お買い上げ日：保証書に記載
故障の症状：エラー表示など、できるだけ詳しく

◆保証期間中

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。

◆保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できるときには、ご希望により有料修理させていただきます。

◆修理料金

技術料+部品代などで構成されています。

ご相談窓口(使用方法・お手入れのしかた・修理のご相談など)

お客様ご相談窓口(通話料無料)

携帯電話、スマートフォンからもお問い合わせいただけます。

TEL 0120-468-110

FAX 0120-468-220

<受付時間>

9:00~12:00/13:00~17:00(土曜・日曜・祝日は除く)

インターネットからのお問い合わせ

■パソコン・タブレット・スマートフォンからアクセス

<https://www.dainichi-net.co.jp/support/>

ダイニチ工業 お客様サポート

検索



※通信料などはお客様のご負担となります。

※型名(本体底面に表示)をご確認のうえ、ご連絡ください。

ダイニチ工業株式会社におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

1. ダイニチ工業株式会社(以下「弊社」)は、お客様の個人情報をお客様からのご相談への対応や修理及びその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
2. 次の場合を除き、弊社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
 - ①修理やその確認業務を委託する場合
 - ②法令の定める規定に基づく場合
3. 個人情報に関しては、お問い合わせいただきました窓口にご相談ください。



コーヒー豆焙煎機保証書

型名	MR-F60A		
製造番号			
お客様	お名前	様	
	ご住所	〒	
	電話番号	() -	
販売店名・住所	電話番号	見本	
お買い上げ日	年	月	日
保証期間(お買い上げ日から)	本体1年間		

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。

お買い上げの日から左記期間中故障が発生したときは、本書をご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

（お客様へお願い）

お手数ですが、お名前・ご住所・電話番号をわかりやすくご記入ください。

販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。

（ご販売店様へ）

お買い上げ日・製造番号・貴店名・住所・電話番号を必ず記入し（記入のないときは無効になります）、本書をお客様へお渡しください。

〈無料修理規定〉

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で故障したときは、お買い上げの販売店が無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理を受けるときは、商品と本書をご持参、ご提示のうえ、お買い上げの販売店に依頼してください。
- ご転居のときは、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
- ご贈答品などで本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼できないときは、弊社にご相談ください。
- 保証期間内でも次のときは、有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤り、不当な修理・改造による故障や損傷
 - (ロ) お買い上げ後の移動・落下などによる故障や損傷。使用状況などによる変形・変色
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、および公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)などによる故障や損傷
 - (ニ) 異常電圧、指定外の電源(電圧・周波数)、水、ほこりなどによる故障や損傷
 - (ホ) 点検の費用
 - (ヘ) 一般家庭用以外(たとえば、業務用の長時間使用や車両・船舶への搭載)に使用されたときの故障や損傷
 - (ト) 本書の提示がないとき
 - (チ) 本書にお買い上げ日・お客様名・販売店名の記入のないとき、あるいは字句を書き替えられたとき。通信販売などでご購入したときは、商品の送り状・領収書などの提示がないとき
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明のときは、お買い上げの販売店、または弊社にお問い合わせください。
 ※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書(17ページ)をご覧ください。

ダイニチ工業株式会社

〒950-1295 新潟市南区北田中780-6

お客様ご相談窓口TEL 0120-468-110

ホームページ <https://www.dainichi-net.co.jp/>

